

北公民館

平成16年度

社会教育・公民館活動を語る会が開催される



12月2日(火)、岡田校区の町議会議員さんをはじめ、多数のご来賓の皆様をお迎えし、各分館役員の皆さんが中心となり「平成15年度社会教育・公民館活動を語る会」を開催しました。

来賓挨拶では、重川利春議員から「うぐいすは、谷によって鳴き方が変わるといわれますが、青少年の育成にも同じことがいえ、地域の環境や大人の対応によって子どもの育

ちも違ってきます。岡田校区の地域教育がこれからもますます充実することを望んでやみません。」という、心に残る挨拶をいただきました。

その後、各分館内の活動内容や課題の提案など、情報交換が行われるとともに、公民館・分館・学校・社会教育関係団体などの連携の重要性を再確認する機会になりました。特に、これからの時代を担う青少年の育成に関しては、



▲話し合いに真剣に取り組む分館役員の皆さん



▲事業説明の様子

▼主催者挨拶をする赤星教育長



▲来賓挨拶をする重川議員

各種団体や地域からの働きかけ、努力事項や検討課題など大勢の方がその重要性を認識され、地域の子どもたちは地域で支援し、育てるという強い思いを感じました。

また、北公民館でも、今後とも様々な角度から情報・ご意見をいただき公民館活動の充実に努めていきたいと思っております。

補導センターだより

柔道から学んだこと

松前中学校 仲田昌司

「柔道」と聞いて、皆さんはどんな印象をもたれますか？柔道について、ある先生が、こんな話をされました。

「柔道は、まず受け身の練習から始める。受け身は、相手に投げられるための練習、つまり、相手に負けるための練習である。負ける練習から始めるのは、柔道だけではないか。どんなスポーツでも、相手に勝つために練習や試合をする。しかし、柔道は最初に負ける練習から始めることで投げられる痛みを知り、投げられる相手の痛みもわかるようになる。それが試合や稽古相手への思いやりや感謝の心につながる、本当の礼儀作法が育つ。単に怪我の防止のためだけに受け身の練習をするのではない。」

私は、この話を聞き、目の覚める思いがしました。私が柔道の指導に携わるようになって20年目になります。礼儀作法には注意してきましたつもりですが、実際には、試合に勝つことに重点を置いていたように思います。しかし、この話

を機に、「本当の強さ」について考えるようになりました。本当の強さとは、心・技・体の中で、特に「心」が強いことが重要ではないかと考えます。力や技があっても、それで相手を威圧するような人はどうでしょう。弱い犬ほどよく吠えると言いますが、それと同じで、自分の心の弱さをごまかしているだけのようには思います。本当に強い人間は、自分の力量を知り、うぬぼれず、周囲に対して思いやりや優しさをもって接することができると信頼されます。本当に強い人ほど本当に優しい人なのです。

これは、柔道に限らず、社会生活すべてに通用することだと思えます。柔道指導者として、教師として、今後も、本当に心の強い、優しい生徒を育成していきたいと思っています。

思いやりの心を育てるために、「負ける練習」から始める「柔道」が、私は本当に大好きです。